

JAITI 29

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる権利」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

行 所 財団法人 日本農業研修場協力団
〒386-0502 長野県小箕郡武石村沖450
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583
東京連絡所 〒113-0031 東京都文京区柳川1-10-5 (小林集)
TEL 03-3828-9263 FAX 03-3828-9262

今日のジャイチ

爆破事件とその余波

一月二十九日の白粉マオイストによる爆破によって、カカニ農場の農産物集荷センター兼レストランの建物、二階の床に大穴が開き、

二階の壁と窓と屋根はほとんど吹っ飛びました。隣の管理棟も、爆破された建物に面している側の窓が全部割れました。幸い、農場スタッフとその家族にケガは

ありませんでした。

マオイストはジャイチに對して、「新しいプロジェクトは、マオイストによる人民政府に登録して税金を払わなければならない。そうでなければ、さらなるダメージを与える」という警告の電話を、爆破の翌朝、掛けてきました。

その直後の二月一日に、国王による権限掌握があり、その後、マオイストからの連絡は途絶えています。

爆破当時、私はチベットのラサにいたのですが、二月一日から電話が完全に不通になってしまったため、事態の把握と対処方針の策定のため、急遽カトマンズにかけつけました。国境は雪で閉ざされ、車では進めなくなりました。歩いて突

破しました。

とりあえず、カカニの学校はどうか建設工事を進めて開校にむきつけました。しかし、前号でお知らせしたようなアグロツーリズムの振興事業に関しては、施設再建の目的が立たないため、一旦休止とすることにしました。

若者の育成

このように、農山村部における混乱が悪化の一途をたどり、支援がますます必要になってきている反面、活動はますます難しくなっ

てきています。そのような中で、ネパールのために何ができるのか

を考え続けた結果、将来を担う若者の育成に力を注ぐことにしました。五ページ目をご覧ください。

ホームページの開設

ジャイチのホームページを一月に開設しました。ぜひご訪問ください。
<http://www.jaiti.org>

メーリングリスト(メール)による情報の共有、意見の交換の仕組みも始めました。ご関心のある方は、事務局までご連絡ください。(常務理事・事務局長 鎌田陽司)



▶カカニ新学校が開校(3月1日)



▶爆破されたレストランの一部(1階は農産物集荷センター)



▶増改築が進むカトマンズ事務所。建物の中に入っていたコンテナ(右)を外に出し、2階部分を増築しました。

▶朝礼のため整列した小学一年生



カカニ新学校 「カカニ・プライター・スクール」 開校

小学校と幼稚園が一体となったカカニ新学校が、予定日より半月遅れて、五月一日開校しました。なんとカカニ〇五年度の学期始めに間に合わせる事ができました。

建物の建設作業は、マオイストによる脅迫、内戦の影響による急激な物価上昇などによって、難航を極めました。工事は開校後も六月いっぱいまで続きました。

名称

正式名称は、カカニ・プライター・スクールです。プライターとは、プライト(輝いている)の比較級で、

「より輝く、輝いていく」ということを意味しています。子どもたちが、肉体的・感情的・知的・社会的にバランス良く豊かに育ち、潜在している可能性を花開かせていくことを願ってこの名前がつけられました。

園児、生徒

幼稚園は二年間。小学校は五年間。小学校は現在二年生までで、これから毎年一学年ずつ増やしていく予定です。

実際の生徒数は、九十六人。内訳は、幼稚園一年生が二十九人、二年生が二十五人、小学一年生が二十二人、二年生が二十人。計男子六十一人、女子三十五人。九十六人のうち八十人が山岳少数民族のタマン族と被差別カーストです。

募集人員百人に対して、応募が二百十五人もあったため、全員に入学試験と面接を行いました。

教員

先生は、六人、男性一人、女性四人。平均年齢二十一歳の若い人たちです。校長のナルバハドゥール・タバさんは、二十七歳。

三十五人の応募者があり、書類選考をパスした二十一人に面接。地元の人、少数



▲開校前に地域の人々と対話を重ねた



▲先生たちとの打ち合わせ。一番右が校長先生、左がアルン氏

民族の人、そして女性を優先して、選出しました。このほかに用務員の男性が一人います。

開校前に、ジョティ・ケンドラ(ボカラの子ども養育施設、代表は川岡シスター)で、一ヶ月の実務研修をしてもらいました。ここで、モンテッソーリ教育の基礎を学びました。今後とも川岡シスターやポランティアスタッフとしてがんばってくれた岡生子さんの協力などを得て、モンテッソーリ教育の充実を努めたいと思っています。

先生たちは、若くて教授法などはまだ未熟さもあり

ますが、とにかく熱心に一生懸命やっています。適切に指導すれば、しっかりと成長していくでしょう。

横つこを育てる教育

教育は、その中味がとても大切です。ネパールは知識偏重の教育システムなので、ジャイチ独自の教育のあり方を模索中です。

私たちが大事にしたいと思っているのは、体験の中から学ぶ教育。表面的な優秀さではなく、知覚意の根っこを育てる教育です。

また、そのために、小学校だけでなく、幼稚園も付設することにしました。集

中方など、人間としての基礎力は、幼児において形成されるからです。保護者からは、開校して間もなく、なぜA、B、Cとか英語での挨拶をまず教えないのかと、早速不満の声が寄せられました。英語を教えれば、よい教育だというそんな思い込みがあるのです。(日本でもありませんね。)

保護者からの理解が得られるように、より一層努力しつつ、教育方針は一貫させていきたいと思っています。

施設

教室は七室。ホールや職

ユニーク鼎談「和を語る」

小林榮理事長、高田基正副理事長、小宮山宗輝（郷土志家）では、ジャイチの活動の源となった祭体験、出会ひ、そして日本語の源に関する探究が語られていきます。ご希望の方は、事務局又は東京連絡所までお申し込みください。定価一〇五〇円、送料別。

「寄付御礼」 今回の学校建設は、新潟の方で会社経営をされている常瀬憲五さんからの学校作りを支援したいという要望に基づいて行われました。そのため、全資金をご提供いただきました。御礼申し上げます。高、帯懸さんには人間としての基本を育てるための

員室、備品室、トイレなどがあります。校庭はバレーボールやバスケットボールができるぐらいの大きさです。給食は予算の関係で、今のところありません。栄養のある新鮮な食べ物を持たせるように保護者をお願いしてあります。

●理事 堀 邦昌
（社）上田薬商研会に勤務、ニースレーターJ A I T I 三号（一九九二年）から編集

新役員紹介
及び決算報告

●評議員 土原 典雄
長野県農業改良普及センターを定年退職し、二〇〇一年よりカカニ実験研修場を訪問指導中。（長野県佐久市）

「英学生親に」 一クラスの子ども全員の里親となる英学生親制度が始まりました。年間六万円です。ぜひ、要受取親になって、この学校の運営を支えてください。よろしくお願いたします。

五つのモットーもご示唆していただきました。「笑顔で暮らしましょう、挨拶をしましょう、服物を揃えましょう、掃除をしましょう、親切にしましょう。」



▶パシファント学校同様に、衛生動物には力を入れている



▶幼馴染の重宝たち。机はつなげると山形になる



▶力立二儀場から見た力立二儀小学校

決算額

科目	単位円
収入	
基本財産運用収入	304,056
基金収入	21,422,170
設立者寄附	5,080,000
助成金収入	1,655,000
事業収入（現地視察研修・NGO相談員）	3,547,134
雑収入	14,583
基本財産収入（基金）	378,170
当期収入合計	32,401,123
前期繰越収支差額	632,651
収入合計	33,033,774
支出	
農業技術者派遣事業	1,581,453
開発途上国からの農業技術者養成事業	0
武石実習農場事業	17,015
基金事業	220,783
開発途上国の農業団体への助成事業	18,281,108
渡山出入国準備金運用事業	540,172
派遣技術者による調査研究事業	86,892
日本人職員による調査研究事業	2,205,924
衛生虫コントロール事業	0
評価事業	0
現地視察研修調査事業	1,730,732
奨学金奨励事業	19,534
途上国の農業文化案内と視察教材貸し出し事業	717,416
機関紙発行事業	602,967
NGO相談員活動事業	75,310
管理費	5,361,986
基本財産積立預金支出	380,000
予備費	0
当期支出合計	31,911,272
当期収支差額	489,851
次期繰越収支差額	1,122,502

バシファント学校の 現況



▲校内で成績が一番だった男子と女子も、スタッフのポケットマネーで表彰

高校卒業試験の結果

「高橋先生の指導のおかげで」との結果発表が六月十四日にあり、十一人中三人が一等の成績で、五人が二等の成績で合格しました。

バシファント学校の急激な成績上昇には、周りの学

校も驚いているとのこと。

全国の合格率は三十九%で、その中で田舎の学校のバシファントが七十三%を達成したのは立派です。先生の優入替など様々な改善策を講じてきた結果だと思えます。



二〇〇三年は二十四人中三人（合格率は十三%）、二〇〇四年は三十一人中二十五人（八十一%）、二〇〇五年は十一人中八人（七十二%）、合格率と合格者数は減少しましたが、今まで全員二等の成績でしか合格していなかったのが、今回は一等と二等の合格でした。大学の学部なども、より生徒の希望に沿ったところに行ける事になり

ます。

スポーツでも大活躍

学業だけでなく、スポーツでも活躍が目立ってきました。二〇〇五年四月に開催されたマクワランブル郡内の高校のバレーボール大会で、女子は優勝、男子は準優勝でした。

寄宿舎

既存の建物を利用して、高学年の生徒たちが学校に宿泊できるように、学校運営調整委員会が施設の整備を進めています。二十五人分の木製ベッドを、委員会自身で作りました。潜在する生徒からは、月に三十九ドル（約四十五円）を徴収し、管理費の一部としています。

これによって、学校敷地内に住む先生たちの指導を受けながら、授業の始まる前と終わった後に補習が行えるようになりました。

図書室

二〇〇四年度に、図書室が開設されました。今のところ、蔵書は六百七十一冊です。座席は二十人分です。これからも、生徒や先生の学習に役立つ本をもっと増やしていけたらと願っています。

理科室

三十人の生徒が使える理科室が図書室と同じ棟の中

に作られました。器材の充実はこれからの課題です。

保健室

二〇〇五年二月からは、保健室も開設されました。医療資格（コミュニティ・ヘルス・アシスタント）を持つ女性が担当しています。彼女は、学校の保健の授業も担当しています。

重傷など彼女の手に負えないような場合は、保護者に連絡が取られるとともに、病院に送られます。いつでも学校には車はないので、道行く車をヒッチハイクするなどして対処する必要があります。

家庭訪問

バシファント学校のある地域では、まだまだ学校に來ていない子どもたちがいます。また来ている子どもであっても、欠席や遅刻、早退が多かったりします。そこで、家庭訪問のために村々を回ることにしました。

村は山岳地の斜面にかなり広範囲に亘って分布しているため、先生や学校運営調整委員会のメンバーがチームに分かれ、合計八箇所の地点に保護者に集まってもらい、会合を開きました。会合で保護者に伝えたメッセージは、子ども全員を学

校に行かせること、女子も必ず学校に行かせること、学校に定時に行かせること、家庭内でも学習する時間を与えることです。

政府からの支援

学校への道路（引き込み線）の修復のため、郡開発局から五万ドル（約七万五千円）の支援金を受け取りました。ネパール政府からこのような資金助成を受け、たのは初めてのことであり、今後とも協力関係をより一層強化していく必要があります。

（ピム・ラル・グルン、
鎌田陽司）



▶バシファント学校10周年記念集会、保護者や先生との後の学校経営について、議論に意見が出る。



▶バシファント学校から少し離れた村で、イチゴが初めて育った。栽培しているのは、学校の卒業生。

将来世代リーダーのための若者キャンプ

―人生と利他の文明の基本を学ぶ―

ネパールのボカラで、四日に表題の十日間の合宿形式のキャンプを、ネパールの若者たちを対象に行いました。主催はネパールのローカルNGOであるチルドレンネパールとNPO法人開発と未来工房。ジャイチは財政の一部を支援しました。ネパールは政治的、社会的だけでなく、心理的、精神的にもますます混乱してきています。そこで、充実した人生を生き、利他の文明を実現していくための基本となる考え方や方法を若者たちに体験的に伝え、将来におけるリーダーたちを



▶数珠の加工をチベット難民から学ぶ。3時間かけて、せいぜい30円ほど。それでも住み込みで家事手伝いをして月に450円得るのよりはましだといふ。

育成することを願って、この事業は始まりました。

参加した十五歳から二十歳の若者は男女半々で、計二十名。うち、三人はストリートチルドレンの経験あり。三人は孤児、被差別カーストに属する子が六人。十人弱は今もスラムや不法占拠地域に住んでいます。パシファント学校からも三人が参加しました。

内容の柱は、以下の四つでした。

(一) 人生の軸を打ち立てる。人生の目的、目指すべきゴール及び社会、文明のあるべき姿をはっきりさせ

る。

(二) 問題解決の方法論を身につける。人生で直面する様々な身近な問題や社会的問題に対して、対処し解決していくための方法論を学ぶ。

(三) 心身を整える。毎朝、ヨガと瞑想を実践。

(四) 見識を深める。その道の達人たちに直接触れ、人生について学ぶ。また、様々な社会的問題の実情を学ぶ。



▶星朝のヨガと瞑想

人生のゴール設定においては、何になりたいかということを明確にしたのですが、これはネパールの若者にとっては、格別の意味を持つようです。未だにカースト制度が根深いので、何かの職業に就くときに、自分の希望や得意なことを活かすよう励まされるという経験がほとんどないのです。懐かしい未来は、ラダックにおける伝統的社会とその変化を題材に、本当の開発、発展とは何かを考えました。若者は、本当の開発、発展に関する力強い明確なビジョンを得ました。欧米



4 自分たちの心の中にあることを書き出し、共有



4 若者キャンプでのKJ法を用いた発表

や日本のような先進国から何を学ぶべきか、何を学ぶべきでないか、そして自分たちの伝統社会で何を残し、何を残すべきでないかも議論しました。人類の二十世紀の百年の愚行に関しても、代表的な五十枚の写真で振り返りました。

掘、そして解決策の立案を行いました。若者にとって、このようにして皆で議論し解決策を探り、合意形成を図れるのだということがわかり、自信につながったようです。

発表のときの若者たちの自信に満ちた表情は、私自身にとっても、とても励みになりました。ボカラがあるカスキー郡の政府関係者、教育関係者からも高い評価を得ることができました。今後もなんとか継続して若者の生きる力につながるような活動を展開していきたいです。ネパールに本当の平和が構築されることを願って。

(鎌田陽司)

ボランティアの達人

第二回 岡生子さん

二〇〇四年七月から十二月、そして二〇〇五年二月から六月まで、ジャイチのボランティア・スタッフとして、ネパールに赴任。特にカカニ新学校で、ジャイチが今まで取り組んだことのない幼児教育のために、ご尽力いただきました。お疲れ様でした。これからも、ご協力をお願いいたします。

(ジャイチ事務局)

私がジャイチのボランティアとして参加したのは昨年からです。ネパールが大好きで何度も来ていましたが、何か私でもお役に立つ事はないのかしらと、ザッと考えていた時の出合いでした。若い時保育士として働いた経験があるので、今回のカカニの学校で幼児教育を含める計画があると聞いた時は、とても嬉しく感じました。

カカニで初めての幼児教育という事で、地域の人々の期待も大きかったと思います。入学説明会には約二〇〇人位の人々が押し寄せてきました。本当に押し寄せるという言葉がぴったり

するくらいの集まりでした。このような地域の人々の期待を感じながら、よそには無い良い教育の場をみんなで作っていかねければならないと心に誓いました。

このように地域の先生(特に幼児教育を担当している)の一月の実習をお願いしました。シスターも快く引き受けてください。今カカニでは少しずつですが実践が出来るようになります。又、モンテッソーリでは欠かせない教具の選定もしました。ボタンで作っている教具をカカニ用に直してもらい、沢山の教具も揃える事も出来ました。そして、教室で使う机や椅子、子供たちの制服。又、教室のド

アや壁の色などネパールのスタッフと相談しながら作り上げていきました。教材も何度かに分けて購入しました。今思い出してみると忙しかったなあと思います。このような準備や途中、マオイストの事も実際より少し遅れた開校でした。五月一日真新しい制服に身を包んだ生徒たちが続々と学校に歩いてくる姿を見たときは、感懐無量でした。

私のようなボランティアの役割は、ネパールの人々が自分で活動できるような土台作りのお手伝いではないかと考えています。一緒に考え一緒に行動する事で、自分たちで考える基礎を身につけ、みんなで話合いながら、将来の子供たちの姿を感じて日々を過ごす。これらのサポートが役目だと思います。

今回の活動の中で、もっとも申し訳ないなあと思っただ事は、言葉の問題でした。なかなか覚えられないネパール語は、最大のネックになっていたかを知り、もつたない事、尊い事と頭が下がりました。毎回添えられていた手書きのお言葉、それがあつたから、ジャイチとのつながりが続いていると思っっています。本当にありがとうございます。

最後に、開校したカカニ・ブライター・スクールの教職員全員(七人)は毎日ニコニコしながら頑張っています。これからももっと質の良い教育の現場をめざして行ってほしいと願っています。その為のお手伝いを今後とも色々な形でしていきたいと考えています。

(福島県福島市 岡生子)

読者の声

●当地一田近くあつた積雪も昨夜の南風と雨でみるみる消えていきそうです。

先日は、活動記録誌と二和を語る一早速送って頂きありがたうございました。一和

に読ませて頂き、ジャイチの成り立ちから今日までの経過、理念、そしてスタッフの方々のお姿を拝見してジャイチの全体像が初めて理解できた気がしました。とはいえまだまだ皆様の活動のすごさ、大変さは、何もわかっていないと思えます。特に何気なく手にしていたニュースレターの発送作業が、いかに多くの方々のボランティアで支えられ

が自分で活動できるような土台作りのお手伝いではないかと考えています。一緒に考え一緒に行動する事で、自分たちで考える基礎を身につけ、みんなで話合いながら、将来の子供たちの姿を感じて日々を過ごす。これらのサポートが役目だと思います。

最後に、開校したカカニ・ブライター・スクールの教職員全員(七人)は毎日ニコニコしながら頑張っています。これからももっと質の良い教育の現場をめざして行ってほしいと願っています。その為のお手伝いを今後とも色々な形でしていきたいと考えています。

今、おが娘もカンボジアで農業を中心とした活動に携っております。住民が自立出来る支援をと試行錯誤しながらの日々の様です。私共あーすの会もいろんな経験・学びを重ね視野を広め社会を見つめて行こうと話合っております。

長野県佐久市 山崎 やす



▶四さんと先生たち(カカニ新学校前にて)

▼ジャイチ 事務局だより

- 1月 機関誌28号を発送
ジャイチ15年記録誌を配布
国際農林業協力・交流協会へ専門家派遣支援事業完了報告を提出
- 2月 岡生子さんボランティアスタッフとしてネパールへ赴任
鎌田事務局長が緊急事態でチベットからネパールに出張。国境近くは雪でとざされ車で進めず、歩いて突破。
菊池理事がNGO相談員連絡会議に出席
菊池理事が上田市倫理法人会でNGO相談員抽出サービス
菊池理事が梨の花粉調査研究でネパールに出張
- 3月 理事・評議員会(2005年度事業・予算、寄附行為変更、理事・評議員の選任と承認)
依田望南高等学校16年度卒業生がバシファント学校用カバン76個寄付
機関誌29号全国会議
- 4月 鎌田事務局長が総合指導でネパールに出張
法務局へ理事の変更登記
長野県へ理事異動届け、寄附行為変更認可申請を提出
外務省に17年度NGO相談員事業申請書を提出(不採用)
上田市倫理法人会講演会で広報活動(15年誌寄配布)
16年度決算監査
武石村へ法人税減免申請書を提出
- 5月 理事・評議員会(2004年度事業・決算報告と承認)
機関誌29号編集会議
法務局へ資産総額の変更登記
長野県に事業計画・報告と資産変更の届けを提出
- 6月 国際農林業協力・交流協会に専門家派遣支援事業計画書を提出
ジャイチ15年記録誌を印刷(2000部)
岡生子さん帰国
JANIC総会に山田理事出席
バザーを有難うございます。
世田谷フリーマーケット(東京都世田谷区)

ジャイチネパール▼

- 1月 チベット伝送路を完成する学校の教師のためのトレーニングが行われた
カカニ農場の農産物集荷センター2階のレストランが、自給マイストによって建設される。カカニ新学校の建設作業は19日間、中断を余儀なくされる
- 2月 マイスト問題への対処方針およびガイドラインを策定
観光農園のレストラン開設に向けた、高橋方里子さんによる料理の指導と開発
ジャイチネパールのカマンス事務所増改築工事始まる
- 3月 カカニ新学校の運営方針に関する説明文書をネパール語で作成し、地域の各関係者と会合を持つ
カカニ新学校の先生の雇用と、ポカラのジャイチランドにおける1ヶ月のトレーニングに4人の先生を派遣
NGO-JICAデスグによるNGOスタッフのための会計トレーニングに参加
- 4月 バシファント学校で13周年記念の集まり、新学期始まる
ポカラでネパールの若者のためのキャンプ開催に協力
イチゴの収穫期が終わる
カカニ新学校の入学試験
カカニ新学校のすくに必要な分の教室の建設・内装工事がなんとか終了
- 5月 11月 カカニ新学校の閉校
- 6月 カカニ新学校の建設・内装工事が一通り終了
カマンス事務所増改築工事が一通り終了

第十六回ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集

●日程 十一月六日(日)～十三日(日)七泊八日
旅程 関西空港からの直行便で同日カトマンズに着
翌日よりバシファント学校・カトマンズドゥーボカラ(ミニトレッキング)・カトマンズドゥーカカニ実験研修農

場・カカニプライベート学校と移動します。
十二日夜カトマンズドゥーより出国。十三日関西空港へ戻り。
●費用 二十四万円。全行程中の移動手段(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食料代(飲み物は除く)を含む。日本国内の空港往復の交通費と、海外旅行傷害保険は含まれていません。

●参加条件 一、二時間散歩が可能な方。海外旅行傷害保険加入。
●最少催行人員 八名(定員十五名)
●申込方法 電話・ファックスにてお問合せ下さい。後日、申込書と詳しい旅行条件を記載した書面をお送り致します。
●申込期限 八月二十七日(土) 定員になり次第締切。

●現地プログラムについてのお問合せ 現地プログラム企画 (財)ジャイチ事務局 豊田
田 〇二六八八―八五二―四六五
〇二六八八―八五二―五八三
●お申込み 旅行企画・実施 (株)風の旅行社
国土交通大臣登録旅行業
第一三八二号 日本旅行業協会会員
〒一六五―〇二六 東京
都中野区新井二丁目三〇―四
I F Oビル六F
TEL 〇三―三三三―八五二―七三
〇三―三三三―八五二―七四
担当者 原 優二までお申込み下さい。

世田谷フリーマーケット

毎月一回、日曜日、東京の安藤雅子さん、土屋美智子さん、関口淑子さん、榎康子さん、田山豊實さん等のグループが品川インターシティを中心に活動されています。

このバザー用品を、保管場所(大岡山)から品川まで運搬をお手伝いしていただける方を求めています。

大岡山・午前八時～品川・九時、品川・十四時～三十分、大岡山・十六時、普通自動車(座席とトランクに乗る程度)の(ダンボール箱十箱)荷物です。

◆古切手の収集が続いています。切手の回りに五ミリの余白を残して下さい。換金してジャイチの維持費にします。機関誌のご支援者名簿にお名前を掲載させていただきます。お礼とさせていただきます。尚、カードの収集は中止します。

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本的財源の確保
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
3. ジャイチ事業費

新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保することを目的としています。育英基金等

郵便振替 00510-4-65434
振込先 番号 銀行振込 八十二銀行丸子支店(巻)420577

口座名 財団法人日本農研機構協力団
住所 〒386-0502 長野県小県郡武石村沖456

電話 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りご自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的々考えは如何でしょうか。)

お知らせ

◆国際協力フェスティバル
十月一日(土)、二日(日)
日比谷公園(東京都)

◆まるこ国際交流フェスティバル
十月二日(日)
丸子町文化会館(長野県)
お出かけ下さい。

◆古切手の収集が続いています。切手の回りに五ミリの余白を残して下さい。換金してジャイチの維持費にします。機関誌のご支援者名簿にお名前を掲載させていただきます。お礼とさせていただきます。尚、カードの収集は中止します。

物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載致します。ご冥福をお祈りしますと共に、今までのご支援に対し感謝致します。

植田昭子様 十五年
(東京都葛飾区)

三宅忠詮様 十六年
(広島県広島市)

生野常喜 十七年六月
(千葉県市川市)

西元妙子様 十七年
(東京都渋谷区)

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載致します。ご冥福をお祈りしますと共に、今までのご支援に対し感謝致します。

植田昭子様 十五年
(東京都葛飾区)

三宅忠詮様 十六年
(広島県広島市)

生野常喜 十七年六月
(千葉県市川市)

西元妙子様 十七年
(東京都渋谷区)

※編集後記、休みます(愚)